

神とともに歩もう

(2016年度『牧羊者』夏期学校教案)

「ノアはその時代の人々の中で正しく、かつ全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。」(創世記6:9)

第1課「恵み深い神様」

第2課「与えられた箱舟」

第3課「みことばに従うノア」

カリキュラム解説

第一課「恵み深い神様」では、神様の恵みをあたりまえに思う人間は自分勝手になり、その結果暴虐が世に満ちて、ついに滅びてしまうということがテーマです。昔も今も神様の恵みを感謝せず、自分勝手に生きている人間が多いことをしっかりと教えて下さい。

現代は子どもを自由にさせておくことが良い教育と考える傾向にあります。でも聖書は決してそう言うてはいません。「神を恐れ、その命令を守れ」と命じられているように、幼いときから何が善であり、何が悪であるかをしっかりと教えて、それに従わせるべきです。

ノアの時代もまた現代も、神様の恵みがどれほど豊かに注がれているかを知らせて下さい。そして、神様の恵みに感謝しないで自分勝手に生きていることは罪であることも知らせて下さい。

もう一つ注意点が 있습니다。「恵み」とは衣食住の必要が満たされることだけではなく、人間が嫌だと思つことも含まれる点です。しかしそれさえも感謝して受け取るのが、「主の心になろう」という「主の前に恵みを得る」ことだと教えて下さい。下級科の生徒には「病気になるたとき」、お母さんの優しさがわかった」などの実例がわかりやすいかもしれません。

第二課「与えられた箱舟」では、神が猶予されている間の救いがテーマです。段ボールなどで箱舟の模型と教会の模型を作って比較してみるなら、その大きさがわかるでしょう。そして現代においては、主イエスの十字架が箱舟と同じものであることを強調して下さい。

ペテロの手紙から三箇所の引用があります。これはノアの箱舟を単なる昔話としないために非常に大切です。現代が悪い時代であり、いつ滅ぼされても不思議ではないことを知らせた上で、十字架を信じる決断に導いて下さい。

終末・再臨についてもふれねばならないかもしれません。でも無用な不安感を与えないように注意して下さい。重点は滅びでなく救いにあるからです。

第三課「みことばに従うノア」のテーマは「みことばを信じて従う」ことです。実践です。子どもたちの周囲には悪の誘惑が満ちています。幼い頃から、それらに対して明確に「ノー」と言う勇氣をもたせねばなりません。第二課で救いが明確になっているなら、この勇氣もきっと生まれてくるでしょう。

でも「行いによる救い」にならないように注意して下さい。良い行いで救われるのではなく、主のみことばに従ったゆえに救われたのだ。だからもはや自分勝手に生きているのをやめ、悪の誘惑を退けようと、生徒を励まして下さい。

今学校では、友だちと同じように悪いことをしないと仲間はずれにされる場合があることを聞きます。実際にそのような立場に置かれている子どもたちがいるかもしれません。そういう子どもたちの悩みを、今回の夏期学校で親身になって聞いてあげて下さい。学校の先生にも話せないことを、話してくれる場合もあるでしょう。どうすれば良いかを一緒に考えてあげて下さい。

今年の夏期教案は、二〇〇〇年度のものをもとに作成しました。当時の執筆者の先生方が、快く原稿の使用や修正を許可して下さい、また、監修下さいました。心より感謝いたします。

説教例・カリキュラム解説

研究資料 鎌野 善三師
長田 栄一師

ワーク
下級(原案) 長谷川宣恵師
中級(原案) 長尾 秀紀師
上級 森沢 尚生師
ワーク・リデザイン

事務局・佐藤 由香 姉

今夏の各地のバイブルキャンプ・夏期学校の上に、主の祝福が豊かにあります。このことを祈ります。

教会教育室長 中島 啓一

第一課 恵み深い神様

聖書 創世記6・1～8

中心聖句 ノアは主の前に恵みを得た。

(6・8)

目標

苦しいことは、自分の罪と神様の恵みを悟るために与えられている課題であると知ろう。

導入

夏期学校ではキャンプ・フアイヤーやゲームなど、楽しいことがいっぱいありますが、一番大切なのは、聖書の時間ですよ。今年は「ノアの箱舟」のお話をします。有名なお話なので、聞いたことがあるかも知れないね。でも、もし今日だれかが、「皆さん、来年に大洪水がおこります。私が造っている舟に乗ってください」って、道端で叫んでいるなら、皆さんはその人の言うことを信じるでしょうか。

神様の恵み

ノアの時代までは、人間は六百歳か七百歳、時には千歳までも生きることができました。地球の環境がとても良かったからです。暖かくて雨が多く、食物も恐竜が暮らせるほど豊かで、病気をする人もほとんどいませんでした。もし本当の神様を知っていたなら、これらはみんな神様が与えてくださったものだとか心から感謝できずに違いありません。

人間の罪

しかし残念なことに、ノアの時代の人々は、神様に感謝することを忘れていました。そればかりか、神様を信じない人と結婚するようになり、神様の心を第一としなくなってきました。その時代のことがマタイ24・38には、「人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた」と描かれています。人々は豊かな生活をあたりまえと思い、神様に感謝するどころか、今日一日自分だけが楽しく過ごさずことばかり考えていたのです。これこそ人間の罪です。

今の時代に似ていますね。大人も子どもも、ごちそうをいっぱい食べています。学校でも、自分勝手に弱い者いじめばかりしている人がいます。テレビゲームをしたり、漫画を見たり、楽しいことは喜んでするけれども、勉強や仕事やお手伝いなど、しんどいことはやらないお友達もいます。しかし苦しいことを避け、したいことだけやっている人々はわがままになり、「その心に思いはかることが、いつも悪い事ばかり」になってしまふのです。

神様の恵みを感じないで、自分勝手に生きる人は、神様の心から遠く離れてしまっています。そういう人々がどんどん増えていったために、ノアの時代には、この地上はそれこそ地獄のようになっちゃったのです。そんな状態をご覧になった神様は、地上に人間を造ったことを悔いて、心を痛めておられました。そしてついに「わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい

去ろう」と決心されたのです。

正しい生き方

しかし、ノアは他の人々と違った生き方をしていました。神様が自分に与えてくださったすべてのことに感謝して一生懸命に働き、三人の子どもたちをちゃんと育てていました。何よりも、主なる神様の声をいつも真剣に聞こうとしていたのです。これこそ「主の心にかなっていた」(8節・新改訳)ことでした。

いやな病気も、死も、仕事も、勉強やお手伝いも、神様が人に与えられた課題だと知ってください。病気は必要です。なぜなら病気になるって初めて、人間はいつか死なねばならないことを悟るからです。死は必要です。それは永遠の滅びがあることを知らせってくれるからです。勉強やお手伝いは必要です。それをするのが、神様のみ心にかなうことだと教えてくれるからです。私たちがいやに思うことも、実は神様の恵みなのです。

結び

ノアは、悪い人たちの中に住んでいても、神様のみ心にかなう生活をしていました。だからノアは恵みを得たのです。皆さんは、自分のしたいことだけをして、わがままに向かってはいませんか。しなければならぬことをして、ノアのように神様のみ心にかない、主の恵みを得るものになりましょう。

研究資料

ノアの時代

五章には「アダムからノアまでの十代の系図が記されているが、人口の増大に従って、罪悪が地上を覆うようになった。そのあり様については、今回のテキスト箇所その他、6・11～13（第二課）、マタイ24・37～38にも描写されている。そこには、①悪の蔓延（すべての人が罪悪の中に生きていた）、②墮落傾向の深化（人の心が常に悪に傾いていた）、③道徳基準の混乱（善悪の基準が乱れきっていた）があった。

これらの点は、現代社会の状況の中にも容易に見出される。マタイ24・37は、「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう」と、終末時代とノアの時代の状況との類似を指摘する。

続いてのマタイ24・38では、二つの時代の類似点として、「食い、飲み、めとり、とつぎ」ということが指摘される。食欲や性欲自体は、神が人間に備えられたものであって、正しく用いるなら祝福の基となるが、神の御心から離れ、ただ地上的な関心で生きるだけなら、神の裁きを免れることはできない。

ノア

はなはだしく墮落した時代にあつて、ノアは、「正しく」、「全き人」で、「神と共に歩んだ」（6・9）。

彼は、洪水物語の中心人物で、彼とその家族だけが箱舟に入り、洪水による裁きから生き延びることができた。

彼の名「ノア」は、「慰める」（ナーハム）との言葉からつけられた（5・28）が、彼の存在は、神にとつても、周囲の人々にとつても慰めを与えるものであつたであろう（6・8参照）。しかし、同時に、周囲の邪悪な生き方に惑わされない、強い生き方を示した人でもある。彼は、箱舟建造その他の神のご命令を忠実に果たしていった（6・22、7・5、9）。「義の宣伝者ノア」（第二ペテロ2・5）と呼ばれるように、周囲の人々に、神の裁きと救いの道を示し続けた。その生き方は、現代の世にあるクリスチャンが見習うべき生き方である。

これらの彼の行動を支えたのは、何といつても、彼の神への絶対的な信仰であり、信頼であつた。まだ見ていない事実を確認する信仰、神をおそれかしこみ、常に神と共に歩もうとする信仰であつた。彼は、「その信仰によつて世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となつた」（ヘブル11・7）と言われている。

テキスト

- 2 **神の子たち** 天使との説もあるが、マタイ22・30から、「神信仰に生きるはずの人々」と取る方がよい。セツの子孫とカインの子孫との区分を考える解釈も可能。 **自分の好む者を** 神の御心を伺う余地のない生き方を示唆している。
- 3 **わたしの霊はながく人の中にはとどまらな**

い 神の霊である聖霊が、人の中にとどまらな

いとされることは、人間に対する大きな裁き。

彼の年は百二十年 文法上は、洪水による裁きまでの期間とも、人間の寿命の縮小とも取れるが、5・32、7・6から後者の解釈がよい。

5 **その心に思ひはかること** 罪悪の源泉は人の心である（マルコ7・20～23、ヤコブ1・15）。

6 **悔いて** 神の激しい心の痛みに対する表現。このような事態を見通せなかつたことを意味するのではない。

8 **ノアは主の前に恵みを得た** 新改訳では、「主の心になつてゐた」。ノアに対する神様の特別の顧みがあつた理由は、「正しく、かつ全き人であつた。ノアは神と共に歩んだ」（9節）ことに帰されている。

第二課 与えられた箱舟

聖書 創世記 6・11～22

中心聖句 ノアはすべて神の命じられたようにした。(6・22)

目標 今はさばきが猶予されている期間だから、悔い改めて主イエスを信じよう。

導入

プールや海で遊んでいたときに、おぼれかけた人はいませんか。そのときだれかが助けてくれたから、今、このように夏期学校に来ているのです。前回、人間が悪いことばかりしているのを見て神様は人間を滅ぼそうとされたお話をしました。でも神様はノアに、助かる方法を教えてくださったのです。

箱舟の大きさ

神様はある日、ノアに、「わたしはすべての人を絶やそうと決心した。でも、あなたはいとすぎの木で箱舟を造りなさい」と仰せられました。いつも神様と共に歩んでいたノアは、それが本当に神様の声であることがわかったので、すぐにそれを造り始めました。

箱舟とは、エンジンやオールなどがない、ただ浮くだけの舟のことです。聖書に書いてあるサイズは、長さが百三十五メートル、幅が二十二メートル、高さが十三メートルほどで、二万

トン級の船と同じ大きさになります。内部は三階になっていましたので、延面積は一ヘクタール近くでしょう。甲子園球場と同じほどの大きさです。屋根付きの貨物列車なら、五百台分ほどのものが収容できる計算になります。

箱舟を造る

ノアの時代にこんな大きなものを造るのは、普通ではとても無理なことだったでしょう。でも神様が造り方も教えてくださいました。いとすぎの木を組み合わせ、内と外とにアスファルトを塗るという方法です。神様がこの地上を滅ぼそうとされていることを知っていたノアは、奥さんと二人の息子たちの家族と一緒に、休む暇もなく働きました。

しかしもつと大切なことが、新約聖書の中に書かれています(第二ペテロ2・5)。箱舟を造りながら、ノアは周囲の人々に神様のさばきのことを伝えたのです。彼は「義の宣伝者」として、自分勝手な生活をしていた人々に、正しく生きるように警告していました。

箱舟の意味

箱舟に塗った「アスファルト」という語と、「贖い」を意味する語は、ヘブル語では同じ種類のことばだそうです。箱舟に乗りさえすれば大洪水がやってきても救われるのですが、残念なことに、だれもノアのことばを信じようとはしませんでした。それでもノアは、箱舟ができるまでの間中、伝え続けました。

神様は、この期間、「寛容をもって待つておられた」ことを忘れないでください(第一ペテロ3・20)。ノアのことばを信じて、自分勝手な生活を悔い改め、箱舟に入る人を、神様はどんなに待ち望んでおられたことでしょう。

現代の箱舟

前回のお話にあったように、現代はノアの時と同じような悪い時代です。ノアの時の世界は水で滅ばされたが、今の世界は火によって焼き尽くされると、ペテロは預言しています(第二ペテロ3・7)。しかし、神様は箱舟の代わりに十字架を用意してくださいました。イエス様の十字架を信じるなら、火によるさばきから救われることができます。

今は、ノアよりもつと多くの人々がこのことを伝えていきます。先生もその一人です。教会に來ている人はだれも、これを伝えたいと願っています。みんなは十字架による救いのことばを信じるでしょうか。それとも、「そんなのうそだ」と言うでしょうか。

結び

神様は、私たちみんなが罪を悔い改めて、ひとりも滅びることがないように、ながく忍耐しておられます。でもいつかさばきの日が來るのです。どうかこの夏期学校で、はっきりと「イエス様の十字架は私の罪の身代わりだ」と信じてください。それだけで滅びから救われるからです。

研究資料

大洪水

ノアの時代に起こった大洪水は、単なる自然災害でなく、明確に、人類の罪惡に対する裁きとしてのものである（6・5～7、13）。

大洪水後、主は、同様の洪水による全面的裁きは二度と地上に行わないと語られる（8・21、9・11）が、人間の罪惡を裁くことをやめられたわけではない。「神は侮られるようなかたではない」（ガラテヤ6・7）。聖書は、人に死後の裁きがあること（ヘブル9・27）を明らかにすると共に、世の終わりに、火によって今の天と地が焼き尽くされること（第二ペテロ3・3～7、10～13）、最終的な審判の時があること（黙示録20・11～15）を明らかにしている。主イエスが教えられたように、ノアの大洪水は、現代に生きる私たちにも、世の終わりにおける主の来臨、人類に対する神の裁きを、警告してやまない（マタイ24・37～42）。

なお、洪水の範囲については、釈義上は地域的に限定されたものであったという解釈も可能ではあるが、少なくとも、神のご目的においては、箱舟に入らなかったすべての人、生き物の滅亡が意図され、結果的にもそのようになったということは疑い得ない（第三課研究資料19節解説参照）。

また、世界各地の洪水伝説の存在や、メソポタミヤ地方に残された「ギルガメシュ叙事詩」

と聖書記事との類似性等は、洪水の出来事の実性をむしろ裏付けるものと考えられる。

箱舟

「洪水」の持つメツセージが、神の裁きであるとするれば、「箱舟」が持つメツセージは、神の救いである。罪を裁かずにはおかen義なる神は、罪人の救いを備えて下さる救いの神でもある。

「だれでもキリスト（の内）にあるなら」（第二コリント5・17）と言われるように、キリストは神が全人類のために備えられた箱舟である。箱舟に入ったもののだけが神の救いを得た（7・23）ことは、キリストの他に救いがないことを示唆している（使徒4・12）。

ノアの時代、神は箱舟を備え、人々の悔い改めを寛容をもって待っておられたように（第一ペテロ3・20）、現代も神はすべての者の悔い改めを望んで待っておられる（第二ペテロ3・9）。ノアが「義の宣伝者」（第一ペテロ2・5）として神の御心を伝えたように、教会は世に対して箱舟であるキリストを伝えなければならぬ。

テキスト

11 乱れて 新改訳、新共同訳では、「墮落し」。
暴虐 義でないこと。高圧的な、人の権利を蹂躪するやりかた。

12 神が地を見られると 人は、自らの罪惡を見ておられる神に気づこうとしないが、神は確

かに地上のすべての出来事を見ておられる。道人が従うべき道。

14 いとすぎの本 新改訳、新共同訳では原語のままに「ゴフェルの木」。正確な意味は不明。

アスファルト ヘブル語コーフェルは、カーフアル（贖う）との関連性が指摘される。

15 キュビト 中指の先からひじまでの長さ。約44センチ。

16 屋根 新改訳では「天窓」、新共同訳では「明かり取り」。正確な意味は不明。

18 契約 聖書中、「契約」という語の最初の使用。内容は、9・9～11。

19 二つずつ：雄と雌 種の保存が意図されている。

22 ノアはすべて神の命じられたようにした 信仰による全き従順（第一課研究資料「ノア」参照）。

第三課 みことばに従うノア

聖書 創世記7・1～24

中心聖句 ノアはその時代の人々の中で正しい

く、かつ全き人であった。ノアは

神とともに歩んだ。(創世記6・9)

目 標 自分の考えではなく、主のことば

に従おう。それが主とともに歩むことだから。

導入

皆さんは悪いことに誘われた経験がありませんか。仲の良い友だちに、「万引きをしよう」とか「あの子を仲間はずれにしよう」とか言われたら、どうするでしょうか。

ノアは、周囲の人々がいつも悪い事ばかり考えていた時代に、正しい生活をする事ができました。今日のお話では、なぜそれができたかを考えてみましょう。

人の悪口にめげない

ノアが箱舟を造っていた場所は、海辺でも湖のそばでもありません。陸地の真ん中でした。きつと人々はノアを馬鹿にしたでしょう。でもノアは人々のことばで気落ちしませんでした。いつの時代でも、正しい人の悪口を言う人はたくさんいます。イエス様も悪口を言われ、ついには十字架にかけられてしまいました。弟子のペテロもヨハネも、正しいことを言ったため

に、命をねらわれました。現在でも、正しいことをしようとするとき、それを良く思わない人が必ずいるのです。でもそういう人を恐れてはなりません。

神様のことばに従う

ノアは、神様から「箱舟を造れ」と言われたとき、たといどんなに馬鹿にされても、陸地の真ん中に舟を造りました。「すべての獣や鳥を箱舟に乗せよ」と命じられときに、その通りにしました。それに何よりも、洪水が来ることも知らせました。たといだれが信じなくても。

そしてついに時が来たのです。神様はノアに「箱舟にはいれ」と仰せられました。ノアは直前まで人々に「私たちと一緒に箱舟にはいつてください」と言い続けたでしょうが、最終的に箱舟にはいった人間は、ノアと奥さん、そして三人の息子とそれぞれの奥さんの合計八人だけでした。彼らと動物がみな入り終わったとき、神様は箱舟の戸を開ざされたのです。その直後に雨が降り始め、四十日四十夜、激しい雨が降り続けました。一番高い山も濁流に飲み込まれるほどの大洪水でした。そして人間も動物もみなおぼれ死んでしまったのです。

信仰による救い

ノアと彼の家族が救われたのは、正しい行いをしたからではありません。悪い行いをしていた人々も救われる可能性があります。新約聖書に言われているとおり、ノアは「信仰による

義」によって救われたのです(ヘブル11・7)。わかりやすく言うと、神様のことばを信じて、それに従ったから救われたのです。これが「信仰による救い」です。

今でも同じことが言えるでしょう。神様は、悪いことをした人々を必ずさばかれます。しかし、ノアと同じように神様のことばを信じて従うなら、厳しいそのさばきから救ってくださいます。教会に來ているから救われるわけではありません。神様のことばに従うなら、救われるのです。「イエス様の十字架は、私の罪の身代わりだ」と信じることによって、私たちは滅びから救われることを知ってください。

結び

みことばに従うとは、神とともに歩むことです。そうするなら、友だちから悪いことに誘われても、勇気をもって「いいえ」と言えます。また「悪いことをしても、後できつと心が痛くなるよ」と忠告もできるでしょう。悪いことをしている友だちは、そのままでは必ずさばかれます。友だちが好きだからこそ、ノアのようにちゃんとやってあげてください。

「神とともに歩む」とは、神様を信じて従うことです。そうするなら、皆さんもノアと同じように正しく生きることが出来ます。神様を信じて従うなら、神様とともに歩むことができ、正しい人になれるのです。

研究資料

テキスト

2 すべての清い獣の中から雄と雌とを七つずつ

6・19～20では、単に二つずつとのみ指示されているが、これは原則を述べたもの。清い獣については、例外的に七つずつ。洪水後、ノアは、清い獣の内から取って、燔祭をささげることができた（8・20）。

4 七日の後 箱舟建造後、洪水直前の命令。

神は、ご自身の計画を明確に定めておられる。箱舟に入ろうとしない人々の救いの最後の機会であつたかもしれない。

5 ノアはすべて主の命じられたようにした

6・22での言葉が繰り返され、ノアの従順が強調されている。

11 ノアの六百歳の二月十七日 洪水後、地が

全く乾き、箱舟を出よう神が命じられたのは、ノアが六百一歳の二月二十七日（8・14）であるので、洪水開始から一年と十日後。太陰暦を用いているので、一年は二五四日であつて、洪水開始の日を含めると、三六五日。淵の源 巨大な地下水脈。天の窓 からの暴風雨と合わせて、地から異常に大量の水が流出し、未曾有の大規模な洪水を引き起こしたと考えられる。

16 主は彼のうしろの戸を開ざされた 人の手

によらず、神ご自身が救いを完了して下さる。同時に、救いの時は、今しばらくの間であつて、やがて戸が閉ざされる時が来ることを厳粛に感

じさせる（第二コリント6・2）。

18 箱舟は水のおもてに漂った 箱舟は、航海のための機能を持たず、ただ浮いて漂うだけである。行く先は神様任せであつた。救いは、人間の努力によつて成し遂げられるのではなく、神の手に任せることによる。

19 天の下の高い山々は皆おわれた 地域的に限定された洪水と考える場合（第二課研究資料「大洪水」参照）は、「視界に映る限りの山々は皆」と解釈される。全地球的な洪水と考える場合は、文字通りの解釈になるが、次節の「水はその上、さらに十五キュビトみなぎつて」は、アララテ山より上、十五キュビトと考えるのが普通。

23 ただノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残った 神の備えられた箱舟（キリスト）だけが救いの場である（ローマ8・1）。

暗唱聖句

6・9 その時代の人々の中で 周囲の人々の生き方に左右されないノアの生き方が強調されている（第一課研究資料「ノアの時代」参照）。
全き 完全な。健全な。失敗のない完全さを意味しない（9・21参照）。
ノアは神とともに歩んだ 彼の正しさ、完全さの中心にあつたのは、神と共に歩んだことにあつた。聖書中このように表現されているのは、エノクとノアのみ（この課の準備のためには、第一課研究資料「ノア」も参照のこと）。

参考文献

『新聖書注解・旧約1』（いのちのことば社）
米田豊『旧約聖書講解（上）』（福音宣教会）
パゼット・ウィルクス『創世記講演』（バックストン記念霊交会）
『新聖書辞典』（いのちのことば社）
Derek Kidner “Genesis” (Inter-Varsity Press)

かきゅう だい か
下級 第1課 めぐ ふか かみさま
-恵み深い神様-

せいしよかしよ そうせいき
○聖書箇所：創世記6：1～8

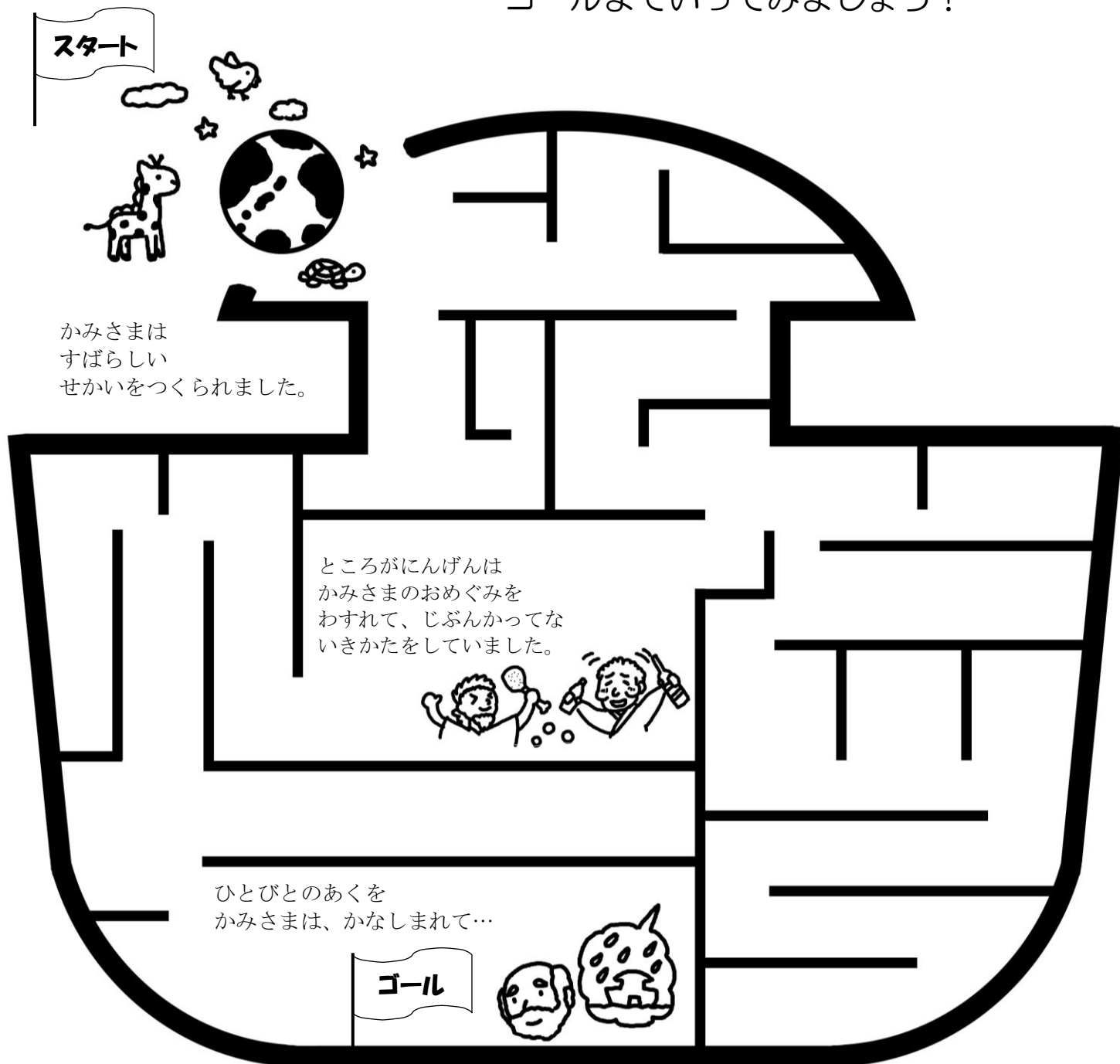
なまえ

あんしやうせいく
○暗唱聖句

そうせいき
創世記6：8

○さんびか：すくいぬしにきたれ（ふくいん子どもさんびか 18）

1. きょうのお話をはなし おも だ した
を思い出して下の「めいろ」を、
ゴールまでいってみましょう！



2. 神^{かみ}さまによろこばれる^{せいかつ}生活をしている人^{ひと}に○をつけよう。

- ① いじわるをする ()
- ② よろこんでおてつだいをする ()
- ③ いっしょうけんめい べんきょうする ()
- ④ すききらいばかりしている ()
- ⑤ だだをこねる ()
- ⑥ いつも神^{かみ}さまの^{こえ}声をきこうとする ()



わがままばかりしていると神^{かみ}さまの『おこころ』を悲しませるね。
なんでも「かんしゃ」して、神^{かみ}さまによろこばれる人^{ひと}になりたいね！

3. きょうわかった うれしいことを、かきましょう。

☆もう一つおまけクイズ☆

10 のどうぶつをさがそう！

ラ	ク	ダ	ケ	ブ
イ	マ	ゾ	イ	タ
オ	ノ	ウ	ヌ	エ
ン	リ	キ	ツ	ネ
ハ	ス	ユ	ナ	コ

4. きょうの^{おいのり}

神(かみ)さま わがままばかりでは
なく 神(かみ)さまによろこば
れるこどもにしてください。
イエスさまのおなまえによつて
おいのりします。

アーメン

かきゅう だい か
下級 第2課 -与えられた箱舟-

なまえ

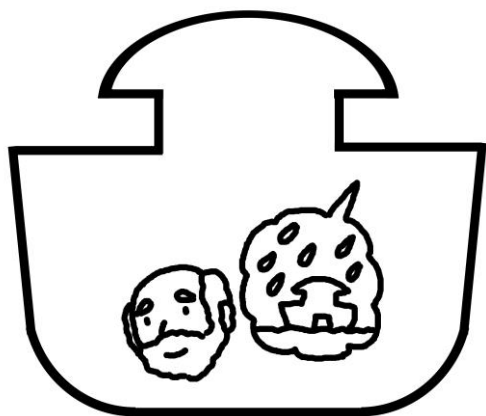
○聖書箇所：創世記6：11～22

○暗唱聖句

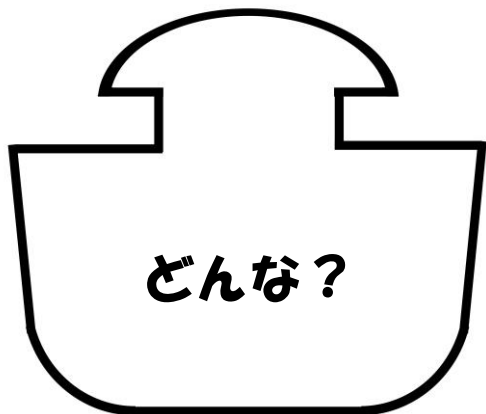
創世記6：22

○さんびか：さあ！ イエスさまを信じましょう（ふくいん子どもさんびか1）

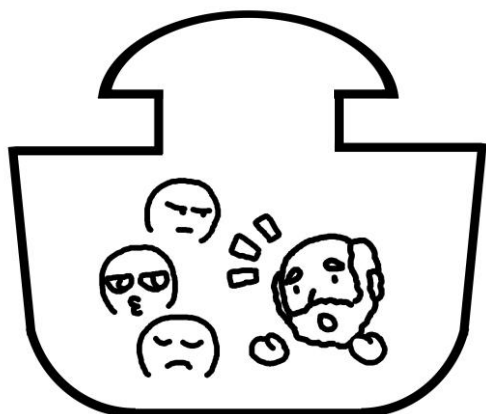
1. きょうのお話を思い出して にことばをいれましょう。



①神さまはある日、ノアさんに
いわれました
をつくりなさい。



②大きな 階だてのはこぶね。
 の木で作り、
内と外に
をぬりなさい。



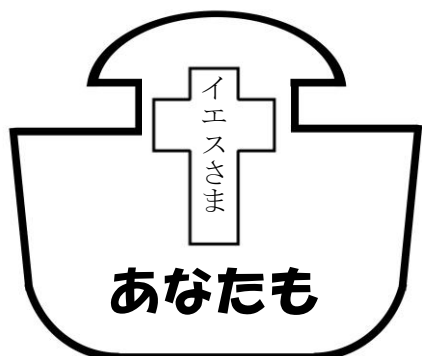
③ノアさんは、神さまのさばき
をつたえて、ひとびとに
 にはいるよう
にすすめました。ずっとその
ことを言いつづけました。



☐ ^{にん}人だけ

④けれども だれもノアさんの^い言う
ことを^{しん}信じませんでした。

はこぶねにはいって^{たす}助かったのは
ノアさんの家族^{かぞく}☐^{にん}人と^{どうぶつ}動物だけ
でした。



あなたも

⑤わたしたちの^{すく}救いのはこぶねは
☐☐☐ ^さまです。

イエス^{しん}さまを^{ひと}信じる人はだれで
も^{すく}救われます。

(できあがったら、色をぬって^{いわ}お話を^{はなし}完成^{かんせい}してください!)

2. きょうわかった うれしいことを、かきましょう。

☆もう一つおまけクイズ☆

「^{かみ}神さまにしたがった^{ひと}人はだれ
でしたか? ^え絵のさいしょの
^{もじ}文字をつないで!

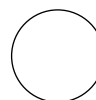
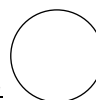
①



②



◎こたえ



さん

3. きょうのおいの

神(かみ)さま、わたしたちの「は
こぶね」イエスさまのじゅうじかを
かんしゃします。
イエスさまのおなまえによって
いのります。
アーメン

かきゅう だい か
下級 第3課 -みことばに^{したが}従うノア-

なまえ

せいしよかしよ そうせいき
○聖書箇所：創世記7：1～24

あんしやうせいく
○暗唱聖句

そうせいき
創世記6：9

○さんびか：みことばきいて（ふくいん子どもさんびか39）

1. きょうのお^{はなし}話^{おも}を^だ思い出してしつもん^{こた}に答えましょう。
 答え^{こた}の『絵^え』に色^{いろ}をぬりましょう。

①ノアさんはどんなせいかつをしていましたか？



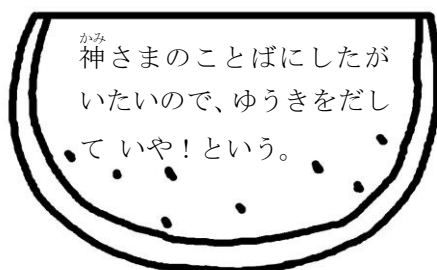
②箱舟^{はこぶね}をつくるように神さま^{かみ}に^い言われたノアさんはどうしましたか？



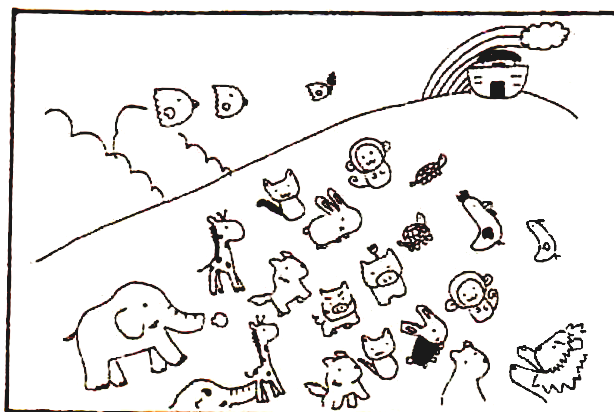
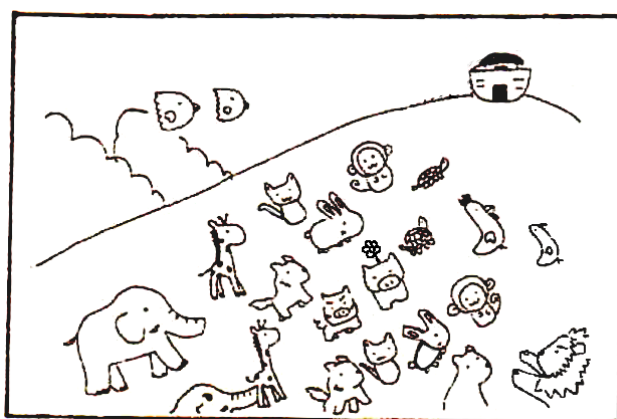
- ③ ^{かみ}神さまが ^い言われたと ^{おおあめ}おり大雨がふってきました。
さて、どうなりましたか？



- ④ さて、みなさんならどうしますか？
おともだちが、^{わる}悪いことをしようとさそってきたら……



☆もう一つおまけクイズ☆



うえとしたの「え」のちがいに○をつけてね！

(ちがいは7つあるよ)

2. きょうのおいのり

神(かみ)さま、わたしたちもノアさんのように神(かみ)さまのことばをしんじて、た
だしく、ちからづよくあるけるようにおまも
りください。イエスさまのおなまえによつて
いのります。

アーメン

めぐみの神様

創世記6：1～8

1. み言葉を書いて覚えましょう。

創世記6：8

2. 下の絵はノアさんのいたところの人びとのすがたです。
この絵の中からノアさんを見つけて○でがこもう。



3. ノアさんは、どうしてほろぼされなかったの？

- ①悪いことを一つもしなかったから。
- ②神さまに正しいとみとめてもらったから。
- ③神さまの、おきにいらだったから。

こたえ

4. あなたは、どうしたら神さまから恵みを受けることができる？

- ①正しいことをいつもする。
- ②神さまを信じて、神さまの声をいつも聞こうとする。
- ③自分かってにする。

こたえ

お祈り

神様、わがままばかりではなく 神様によろこばれる子どもにしてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

はこぶね

創世記6：11～22

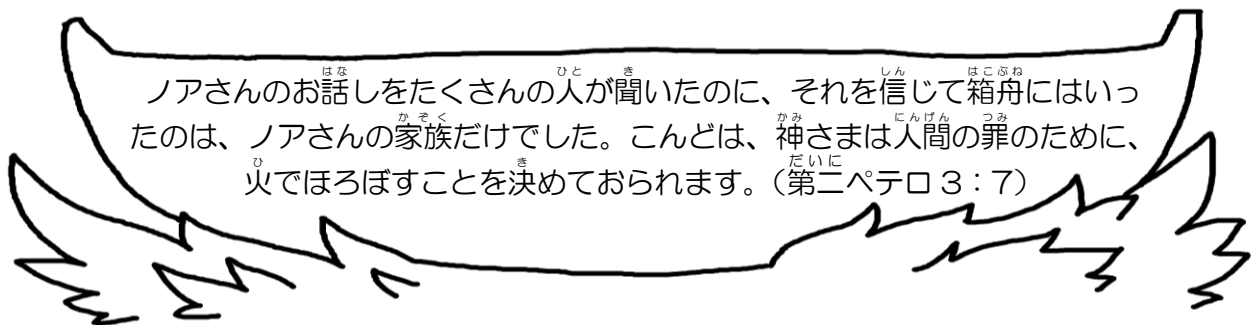
1. み言葉を書いて覚えましょう。

創世記6：22

2. 神さまは、箱舟でだれを救いたかったの？

- ①ノアさん一人だけ ②ノアさんの家族だけ
③ノアさんのお話を信じて、箱舟にのる人、みんな

こたえ



3. その時のために、神さまは、どんな救いの道を用意してくださったのでしょうか？

- ①しょうぼうじどうしゃに乗って、にげなさい。
②ロケットで宇宙に、にげなさい。
③イエスさまが、十字架の上であなたの罪のばつをかわりに受けてくださったから、それを信じるだけで救われるよ。

こたえ

お祈り

神様、わたしたちの「はこぶね」イエス様の十字架を感謝します。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

したがうノア

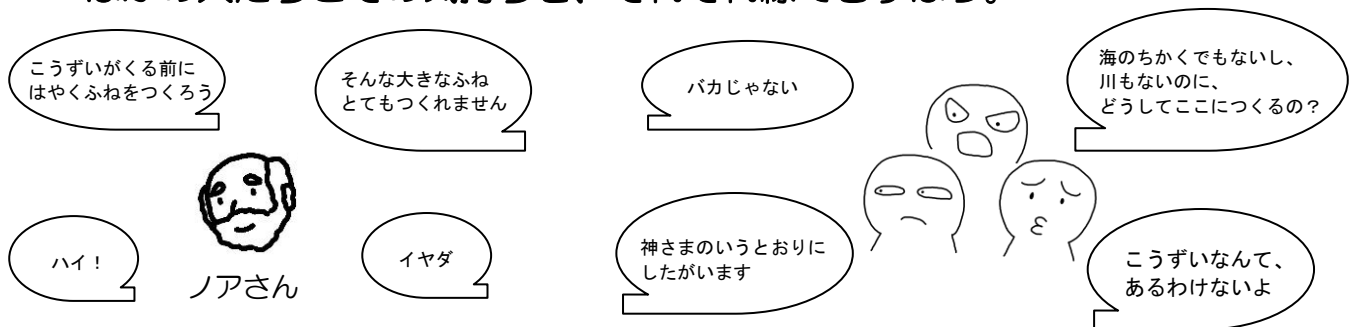
創世記6:11~22

1. み言葉を書いて覚えましょう。

創世記6:9

- 「神とともに歩む」とは、「神さまの言葉を信じてしたがう」ことだよ。

2. 神さまに「箱舟をつくれ」と言われたときの、ノアさんとその気持ち、ほかの人たちとその気持ちを、それぞれ線でむすぼう。



3. の中に、言葉をいれよう。下から言葉をえらんでネ！

① ノアさん が救われたのは からではありません。

からです。

② あなた が救われるのは、 からではありません。

からです。

正しい人だ ・ 神様を信じてしたがった

お祈り

神様、わたしたちもノアさんのように神様の言葉を信じて、正しく、力強く

歩けるようにお守りください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

上級 第1課 「恵み深い神様」

聖書 創世記6：1～8

暗唱聖句 「 」 創世記6：8

I. 質問にこたえましょう。

① ノアの時代までは、人々は何歳ぐらい生きていましたか。

② そのころは、どんな地球環境だったと思いますか。

③ なぜ、人々はその思いはかること全て悪くなってしまったのでしょうか。
(マタイ24：38を必ず参照すること。)

④ あなたも自分のしたいことしかしない自己中心な人間になっていませんか。

⑤ 神様は、ノアの時代の自己中心で思いはかること全て悪い人をどうされましたか。

⑥ では、神様は今の時代の自己中心で思いはかること全て悪い人をどうされますか。

II. () に下の囲みの中の単語を入れて文章を完成しましょう。

例 (痛み) は、病気があることを教えます。だから痛みは必要です。

☆病気は、() があることを教えます。だから病気は必要です。

☆死は、() があることを教えます。だから死は必要です。

☆勉強では、神様の定められた法則を学びます。それは、神様の() を発見するために必要です。

☆勉強では、字を読み、字を書くことを学びます。それは、() を読んで神様を発見するために必要です。

☆お手伝いは、家族の役に立つことを学びます。それは、将来() と人の役に立つために必要です。

☆お友達と遊ぶことは、人と交わり、一致することを学びます。それは、神様と交わり、() するために必要です。

神の裁き	一致	死	聖書	神様	偉大さ
------	----	---	----	----	-----

III. 質問にこたえましょう。

① ノアはなぜ滅ぼされなかったのでしょうか。 (口語訳—ノアは主の前に恵みを得た。)
(新改訳—ノアは主の心になっていた。)
(新共同訳—ノアは主の好意を得た。)

② どうしたら皆さんもノアのように、悪い世界にいても滅びないでいることができるでしょうか。

上級 第2課 「与えられた箱舟」

聖 書 創世記 6 : 1 1 ~ 2 2

暗唱聖句 「

」 創世記 6 : 2 2

◇ 質問にこたえましょう。

① 箱舟の大きさはどのくらいですか。

長さ _____メートル

幅 _____メートル

貨物列車 _____台分

高さ _____メートル (_____) 階建て

② ノアは箱舟の作り方をどのようにして知ったのでしょうか。

③ 箱舟を造ることで、ノアは人々に何をしていましたか。

(Ⅱ ペテロ 2 : 5 を必ず参照すること。)

④ 神様は人類をすぐに滅ぼさずに、ノアに箱舟を造らせた期間、何を待っておられたのでしょうか。

⑤ 神様は人類を滅ぼしたいのでしょうか。

⑥ (_____) にふさわしい言葉を入れて、文を完成させてください。

ノアの言葉を聞いて、悔い改め、箱舟に乗った家族は救われました。これは、現在では

(_____) の言葉を聞いて、悔い改め、イエス様の (_____) の救いを受け入

れて救われることです。

⑦ ノアの時代は、水によって滅ぼされました。今の時代は、何によって滅ぼされるのでしょうか。

(Ⅱ ペテロ 3 : 7 参照。)

⑧ あなたは、ノアの箱舟をばかにした人々のように、イエス様の十字架のみ業（救い）をばかにしますか。

⑨ 現代では、どうしたら人は救われますか。

⑩ あなたはイエス様の言葉を信じ、イエス様の十字架のみ業（救い）を受け入れますか。

上級 第3課 「みことばに従うノア」

聖書 創世記7：1～24

暗唱聖句 「

」創世記6：9

I. 質問にこたえましょう。

① ノアは箱舟をどこに造りましたか。

② それを見た人々はどのような反応をしたでしょうか。

③ ノアは「箱舟を造れ」と言われたとき、どうしましたか。

④ ノアは「箱舟にあらゆる生き物を乗せよ」と言われて、どうしましたか。

⑤ 結局箱舟に入ったのはだれですか。

⑥ 箱舟の戸を閉めたのはだれですか。

⑦ 思いはかること全て悪い人も救われることができました。どうしたら救われましたか。

II. () に正しい単語を下の囲みの中から選び、文を完成しよう。

神とともに歩むとは、神様の言葉を信じて従うことです。ノアは正しい完全な人だから神様を信じたのではありません。神とともに歩む＝神様を信じて()っていたから、正しく完全になれたのです。もしノアが箱舟に乗らなかったら()んでいたでしょう。ノアが救われたのも、神様の()を信じて箱舟に乗ったからです。

従	言葉	滅
---	----	---

III. 質問にこたえましょう。

① 救われるために必要なのは、信じて従うことですか。それとも正しく完全な人になることですか。

② 現代では、どうしたら人は救われますか。

③ あなたはイエス様の言葉を信じ、イエス様の十字架のみ業（救い）を受け入れますか。
